

長期管理に由来する社会心理的問題について

酒井 糾

小児の腎疾患を管理治療するに際して、いかなる方法を選ぶかについては、ほとんどの場合、医療者と家族の合意で決めることとなり、そこには患者本人の意思が介在することは少ない。そこでは、時として本人の意思に反した管理法、治療法が選択される場合もないとはいえず、それゆえ小児においてすらも、インフォームド・コンセント（納得同意）の意義が問われ始めている。

したがって、新しい検査技術、医療技術を適用することの多い今日、それに従事するのは少なくとも、人の価値観、信条、世界観といったことに対して常々心掛けておくべきであろう。

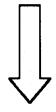
医療者の考え方、態度いかんでは、思いもよらない社会的責任を招来してしまう場合もある事実を、しかと心に銘記しておくべきではないではないだろうか。

とくに、慢性の難治性腎疾患患児の長期管理においては社会・心理的問題が極めて重要である。即ち、情緒的問題の発生は心の後遺症を残し、長期管理を極めて困難にするばかりでなく、その家庭を崩壊させる場合もある。従って、社会医学的要素を含んだ臨床医学の展開が必要とされる。そこでは、医師以外の職種の人々の協力と連携で包括医療を実践することが何よりも必要である。

医療の質管理の大切さが叫ばれている昨今、予防から移植までという幅広い医療の場を有する腎疾患にあって、これからの課題のひとつ

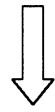
つは社会医学的視野での対応とされている。そして最善管理するうえに、チームアプローチとシステム構築の両者が必要とされ、常に新しい視点での quality control がなによりも大切と考えられている。このたび新設された小児腎疾患の長期管理における問題点（運動、食事、社会心理）に関する研究を担当したグループのなかで、本研究班は長期管理のためのシステム化といった観点での研究の推進が必要と考えている。

（北里大学病院、腎センター）



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



長期管理に由来する社会心理的問題について

酒井 紘

小児の腎疾患を管理治療するに際して、いかなる方法を選ぶかについては、ほとんどの場合、医療者と家族の合意で決めることとなり、そこには患者本人の意思が介在することは少ない。そこでは、時として本人の意思に反した管理法、治療法が選択される場合もないとはいえず、それゆえ小児においてすらも、インフォームド・コンセント(納得同意)の意義が問われ始めている。

したがって、新しい検査技術、医療技術を適用することの多い今日、それに従事するものは少なくとも、人の価値観、信条、世界観といったことに対して常々心掛けておくべきであろう。

医療者の考え方、態度いかんでは、思いもよらない社会的責任を招来してしまう場合もある事実を、しかと心に銘記しておくべきではないではないだろうか。

とくに、慢性の難治性腎疾患患児の長期管理においては社会・心理的問題が極めて重要である。即ち、情緒的問題の発生は心の後遺症を残し、長期管理を極めて困難にするばかりでなく、その家庭を崩壊させる場合もある。従って、社会医学的要素を含んだ臨床医学の展開が必要とされる。そこでは、医師以外の職種の人々の協力と連携で包括医療を実践することが何よりも必要である。

医療の質管理の大切さが叫ばれている昨今、予防から移植までという幅広い医療の場を有する腎疾患にあって、これからの課題のひとつは社会医学的視野での対応とされている。そして最善管理するうえに、チームアプローチとシステム構築の両者が必要とされ、常に新しい視点での quality control がなによりも大切と考えられている。このたび新設された小児腎疾患の長期管理における問題点(運動、食事、社会心理)に関する研究を担当したグループのなかで、本研究班は長期管理のためのシステム化といった観点での研究の推進が必要と考えている。